

# 〔中部山岳森林計画区〕

## 1 計画区の概要

### (1) 位置等

本計画区の国有林野は98,987haで、長野県北西部に位置しており、通称「中信」と呼ばれています。

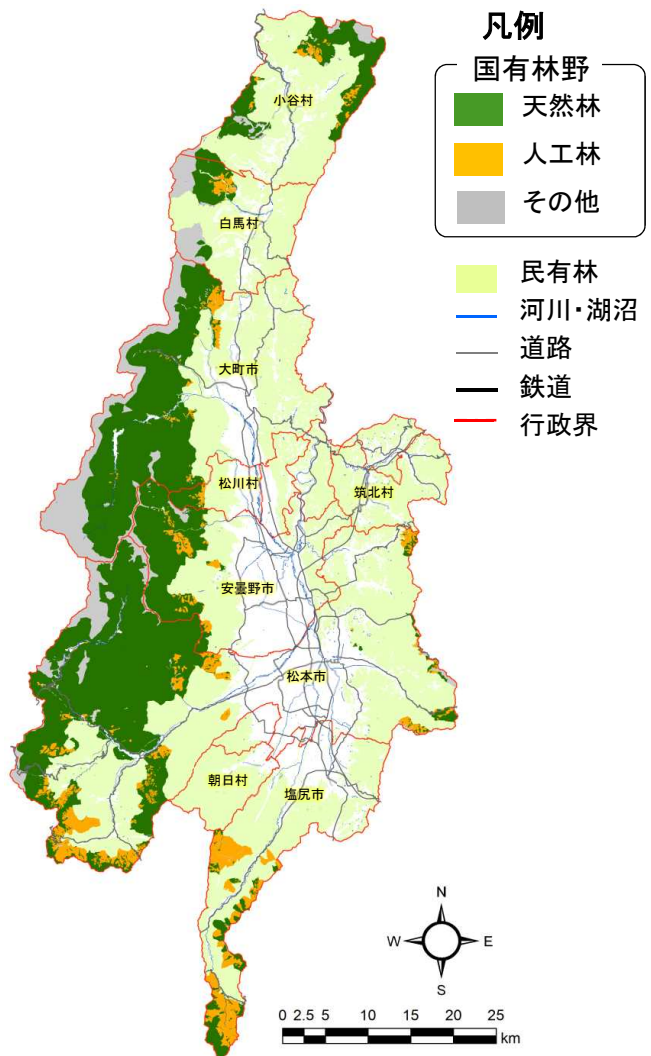
### (2) 森林の構成と特徴

「日本の屋根」といわれる北アルプスの急峻な山岳地帯に国有林野の多くが所在しており、中央部を「糸魚川～静岡構造線」が縦断し、地質的に脆弱で急傾斜地が多いことから、国土保全及び水源涵養といった森林の有する公益的機能の発揮の上で重要な役割を担っています。

森林の現況は、面積割合で人工林11%、天然林70%、その他（立木地以外）19%となっており、天然林が多く占めています。

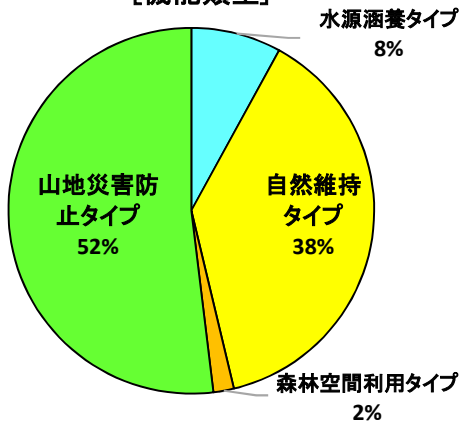
人工林の齢級構成については、8～14齢級が67%を占めており、樹種構成は、カラマツ66%、ヒノキ22%、スギ6%と、カラマツが多く占めています。

〔国有林の分布〕

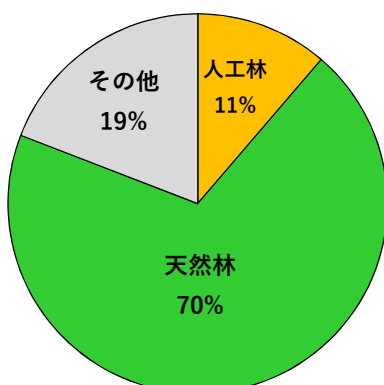


### (3) 国有林野の現況面積比

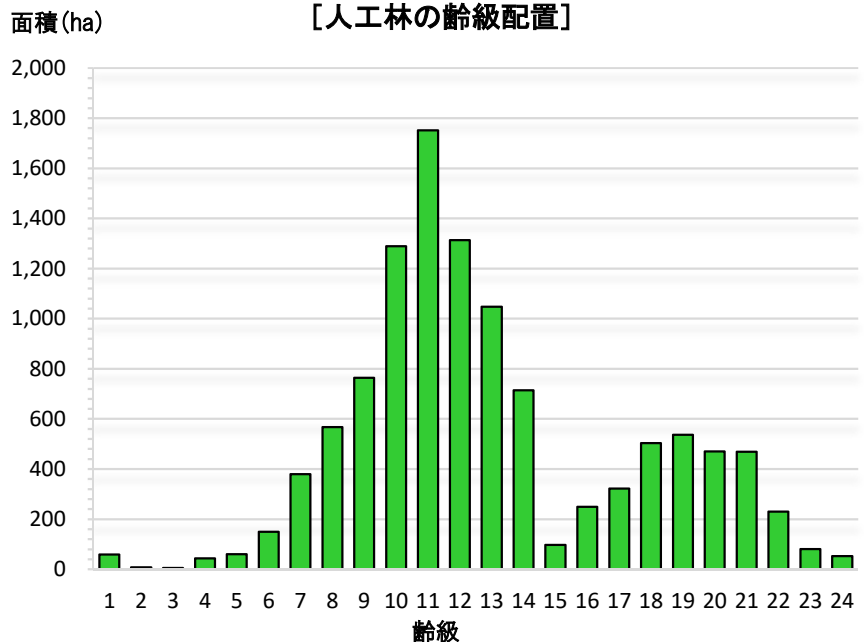
〔機能類型〕



〔人工林、天然林の分布〕



〔人工林の齢級配置〕



## 2 主要事業と主な取組

- ・本計画区は、山地災害防止タイプが52%を占め、土砂の流出・崩壊の防備など国土保全の役割が期待されることから、間伐等の森林整備事業及び治山事業を適切に実施します。
- ・生物多様性の保全機能を発揮するため、保護林等の貴重な森林生態系等の保護・管理に取り組みます。
- ・松くい虫被害拡大については、地域の関心が高いことから、林野巡視等により森林病害虫による森林被害の早期発見に努めるとともに、関係行政機関等と連携しながら適切かつ効果的な防除に努めます。
- ・高齢級人工林カラマツのうち、高品質なものを「信州プレミアムカラマツ」としてブランド化し、そのブランドの浸透・定着を図り、適正な評価の確立と供給に努めます。
- ・水源涵養機能、山地災害防止機能などの森林の持つ公益的機能の維持増進との均衡を図りながら木材の供給を図るとともに、人工林の齢級構成が8齢級から14齢級が67%と多くを占めていることから林齢構成の平準化にも配慮しつつ、主伐期を迎えた人工林の主伐・再造林を実施します。

### (1) 主要事業の実施(5カ年分の計画量)

- 健全な森林を育成し、公益的機能の維持増進を図るため、主伐・間伐等を計画します。

伐採	新計画	現計画	増減
主伐 (内臨時伐採)	129,699 m <sup>3</sup> (27,351 m <sup>3</sup> )	59,042 m <sup>3</sup> (30,443 m <sup>3</sup> )	70,657 m <sup>3</sup>
間伐	162,661 m <sup>3</sup>	255,958 m <sup>3</sup>	-93,297 m <sup>3</sup>
計	292,360 m <sup>3</sup>	315,000 m <sup>3</sup>	-22,640 m <sup>3</sup>

注：臨時伐採とは、事業実行上の支障木等で、計画時点の箇所付けができないもの。

伐採	新計画	現計画	増減
主伐面積	269.86 ha	102.24 ha	167.62 ha
間伐面積	1,181.84 ha	3,224.60 ha	-2,042.76 ha

注：新計画の主伐面積には、分収造林8.95ha、分収育林3.18haが含まれている(主伐面積の4%)

更新	新計画	現計画	増減
人工造林	155.36 ha	71.26 ha	84.10 ha
天然更新	5.14 ha	— ha	5.14 ha
計	160.50 ha	71.26 ha	89.24 ha

保育	新計画	現計画	増減
下刈	932.84 ha	353.47 ha	579.37 ha
つる切	34.20 ha	— ha	34.20 ha
除伐	126.11 ha	381.86 ha	-255.75 ha
枝打	2.98 ha	— ha	2.98 ha

- 効率的な森林施業、森林の適正な管理の基盤である路網を整備するため、林道の開設や改良を計画します。
- 災害に強く安全で安心な国土づくりのため、保全施設の設置や保安林の整備を行います。
- 原生的な森林生態系等からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存など貴重な自然環境の保全・管理を推進します。

林道	新計画	現計画
開設	700 m【 3】	4,078 m【 3】
改良	290 m【 19】	2,380 m【 75】

注：【 】は箇所数。

治山	新計画	現計画
保全施設	29箇所	30箇所
保安林整備	355.27 ha	1,248.12 ha

注：保全施設の箇所数は「単位流域」の数。

## (2) 国有林野の維持・保存

### ○ 貴重な森林の保存

自然環境の維持、動植物や遺伝資源の保護等を目的に設定している「保護林」、野生生物の移動経路の確保等を目的に設定している「緑の回廊」について、引き続き適切な保護・管理に努めます。



北アルプス生物群集保護林

### ○ 森林病虫害と獣害対策

松くい虫などの森林病虫害による被害の早期発見に努め、民有林と連携しつつ必要な対策に取り組みます。また、ニホンジカによる樹木の剥皮や高山植物等の食害防止対策に取り組みます。



ばっとうくんじょうしより うばがふところ  
伐倒燻蒸処理（姥ヶ懐国有林）

### ○ 溪畔周辺の取扱い

溪畔周辺は、野生生物の生息・生育場所、移動経路、種子などの供給源等として、生物多様性の保全上重要な役割を担っているため、本来成立すべき植生による上流から下流までの連続性を確保すること等により、きめ細やかな森林生態系ネットワークの形成に努めます。

## (3) 林産物の供給

- 国有林材の供給等を通じて木材の安定的・効率的な供給体制の構築に寄与するよう努めます。
- 路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムの定着を図り、素材（丸太）販売に取り組みます。また、これまで林内に放置され利用が低位であった末木枝条等の有効利用も考慮しつつ、木材の供給に努めます。
- 一定の基準を満たした長野県の人工林カラマツ材を「信州プレミアムカラマツ」と表示し、ブランド化に取り組みます。
- 合板や集成材等の原料としての利用拡大や、土木分野における木材の利用範囲の拡大を推進します。



信州プレミアムカラマツ  
（産地 贛川国有林）

保護林の設定状況		
種類	箇所	面積(ha)
森林生態系保護地域	1	3,647
生物群集保護林	7	19,953
希少個体群保護林	5	439
計	13	24,039

緑の回廊の設定状況		
種類	総延長(km)	面積(ha)
緑の回廊 雨飾・戸隠	10.4	1,984【3,792】

注：【 】は、緑の回廊全体（隣接する森林計画区分を含む）の面積である。

#### (4) 国有林野の活用

国民の保健、文化、教育的利用に積極的に供することが適当と認められる国有林については、「レクリエーションの森」に設定しています。



北アルプス(上高地)

レクリエーションの森の設定状況

種 類	箇所	面積(ha)
自然観察教育林	2	631
野外スポーツ地域	3	407
風景林	6	798
風致探勝林	4	1,119
計	15	2,955

#### (5) 公益的機能維持増進協定

国有林に隣接・介在する民有林野のうち、森林所有者等による施業が行われず公益的機能確保への支障が懸念される森林については、公益的機能維持増進協定制度の活用により、森林所有者等と協定を締結し、国有林と民有林の一体的な整備・保全に努めます。

#### (6) 国民の参加による森林の整備

森林ボランティア団体による森林づくり活動、企業のCSR活動、学校が行う林業体験や森林教室等の森林環境教育に対し、フィールドの提供に組み込みます。

本計画区では、1箇所を活動のフィールドとして設定しています。



あがりこサワラ

フィールドの提供状況

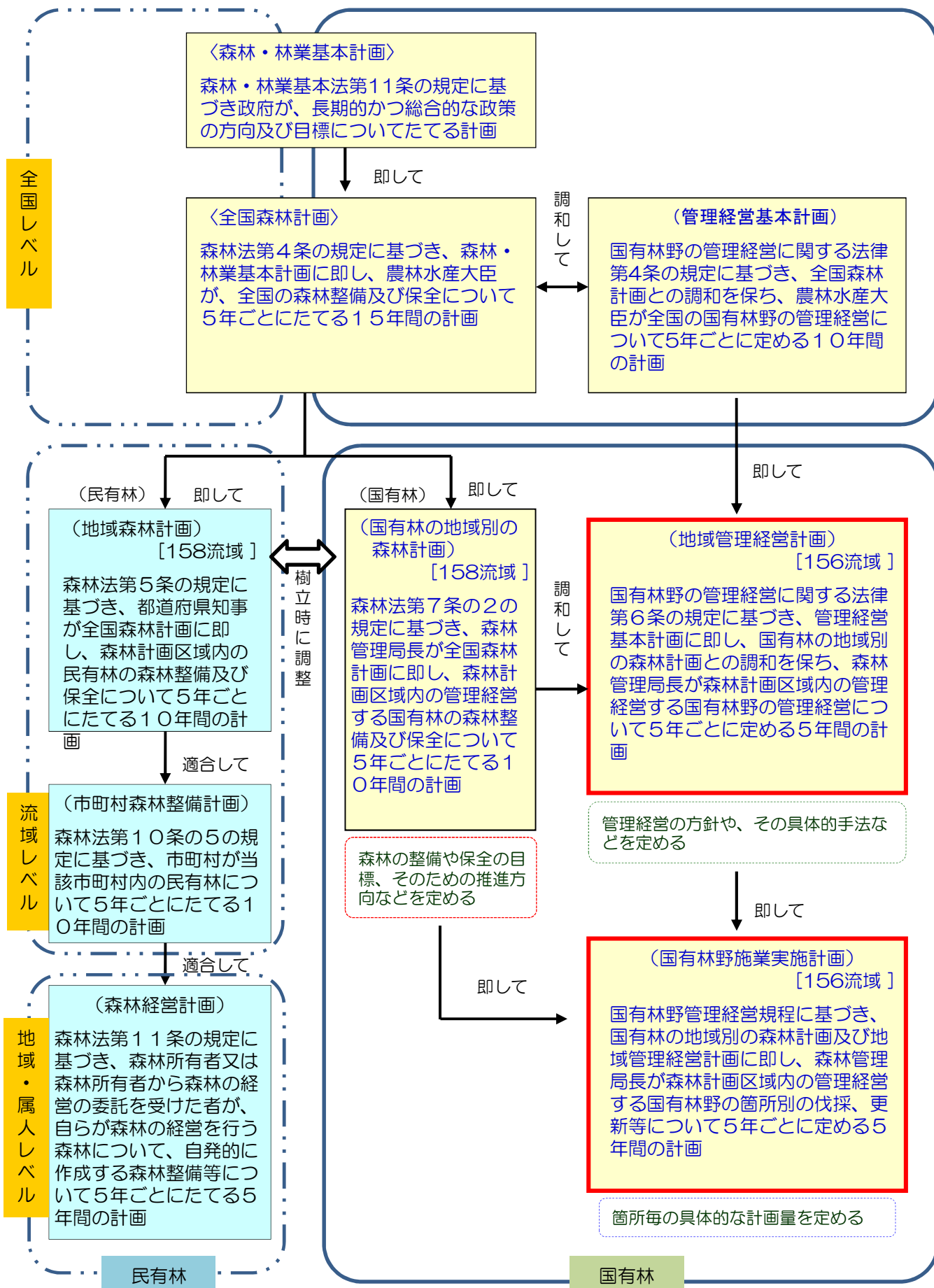
種 類	箇所	面積(ha)	設定箇所
多様な活動の森	1	7.28	馬羅尾国有林(松川村)

#### (7) 森林・林業再生に向けた貢献

地域における施業集約化の取組を推進するため、森林共同施業団地の設定による民有林野と連結した路網の整備等と相互利用の推進、計画的な間伐や現地検討会等を通じた森林・林業技術の普及に取り組みます。

また、民有林の森林経営管理制度が円滑に機能するよう、技術支援などに取り組みます。

# 国有林の計画制度の体系



## <参考>

### ○ 機能類型と管理経営の考え方

個々の国有林野を第一に発揮すべき機能によって5つのタイプに区分し、それぞれの機能の発揮を目的とした管理経営を行います。

#### 山地災害防止タイプ

- ① 主に土砂の流出・崩壊の防備等山地災害防止機能の発揮を第一とする森林  
〔土砂流出・崩壊防備エリア〕
  - ・針広混交林になっている森林は現状を維持
  - ・天然力の活用により更新が可能な場合は育成複層林又は天然生林へ導くための施業を実施
  - ・人工林は、択伐、間伐等により針広混交林への誘導に努力
- ② 風害・濃霧等の気象害による居住、産業活動に係る環境の悪化の防備を第一とする森林  
〔気象害防備エリア〕
  - ・人工林は育成単層林又は育成複層林に導くための施業
  - ・天然林は育成複層林又は天然生林に導くための施業

#### 自然維持タイプ

- 原始的な森林生態系や希少な生物の生育・生息する森林など属地的な生物多様性保全機能の発揮を第一とする森林
  - ・原則として現況の森林を維持することを目的とした天然生林に導くための施業（自然の推移に委ねる管理）
  - ・原始的な森林生態系を有する森林を保護林として管理

#### 森林空間利用タイプ

- 保健、レクリエーション、文化機能の発揮を第一とする森林
  - ・天然林は天然生林へ導くための施業
  - ・人工林は育成複層林へ導くための施業、間伐等による針広混交林化を推進
  - ・自然観察等に適した森林の造成や修景伐などを推進
  - ・レクリエーションの森は広く国民に開かれた利用の場として提供

#### 快適環境形成タイプ

- 快適な環境の形成の機能の発揮を第一とする森林
  - ・騒音又は大気浄化に有効な森林の幅を維持するため、原則として育成複層林へ導くための施業

#### 水源涵養タイプ

- 水源のかん養の機能の発揮を第一とする森林
  - ・人工林は伐期を長期化し、伐採を行う場合は伐採箇所のモザイク的配置に留意しつつ小面積分散型の施業
  - ・水源の保全等に必要な森林は育成複層林へ導くための施業。周囲の母樹の生育状況から天然更新が見込める場合は択伐等により積極的に広葉樹等を導入
  - ・天然林は育成複層林又は天然生林へ導くための施業

#### ※ 木材生産機能

- ・林相の維持・改良など公益的機能の維持・発揮のために必要な施業の結果で、伐採・搬出される木材の有効利用、機能発揮に支障を及ぼさない範囲で齢級構成の平準化や地域ニーズ等に応じて伐採を計画的に行うことにより木材を供給